

⑮感覚・運動器系 2 (耳鼻咽喉科)

1. 研修の目標

耳鼻咽喉科・頭頸部外科の基礎的な知識と診察手技を修得し、プライマリ・ケアを含む基礎的診療を行う能力を身につける。

2. 研修指導体制

- (1) 病棟では、主治医グループの一員として入院患者の治療に従事し、その処置、管理、検査法などについて指導を受ける。また、助手として手術につき手術の基本を修得する。
- (2) 外来では、新患の診察を担当し、専門外来にもスタッフとして参加する。その間、種々の検査法を含めた耳鼻咽喉科の基本診察法を学ぶ。
- (3) 学生臨床実習にあたっては、主治医グループに参加した学生の指導を担当する。

3. 研修指導責任者 高橋 晴雄

4. 研修内容

(1) 外来・病棟での基本的診療の研修

- ①病歴の聴取
- ②耳鼻咽喉・頭頸部領域についての自他覚所見の把握
- ③患者や家族のニーズの把握と問題点の把握
- ④適切な診療録の作成
- ⑤EBM・クリニカルパスの理解と実践
- ⑥基本的な治療法や術式の理解と実践
- ⑦インフォームドコンセントの実際
- ⑧適切な指示録や処方箋の作成
- ⑨適切な紹介状や返事の作成
- ⑩保険診療の理解
- ⑪医療事故・院内感染対策への理解と対処
- ⑫緩和・終末期医療の実践

(2) 手術における研修

- ①手術前後の全身状態の把握
- ②耳鼻咽喉・頭頸部・頭蓋底の解剖の理解
- ③基本的手技の理解の実践
- ④チーム医療への参加と役割の理解
- ⑤適切な診療記録の作成
- ⑥頭頸部癌術後の機能障害に対するリハビリの実践

(3) 特定の医療現場での研修

- ①耳鼻咽喉科救急疾患への初期治療
- ②新生児聴覚検査・三歳児検診・学校検診への参加
- ③臨終への立ち会いと対処

(4) その他

- ①症例検討会や討論への参加

5. 研修到達目標

5-1 行動目標

医療人として必要な基本姿勢・態度を身につける。患者を全人的視野からとらえる姿勢を形成する。

5-2 経験目標

A 経験すべき診察法・検査・手技

(1) 耳鼻咽喉科診察法

- ①耳鏡検査
- ②鼻鏡検査
- ③口腔・咽頭検査
- ④頸部触診
- ⑤咽腔・喉頭ファイバースコープ
- ⑥単純X線写真の読影
- ⑦CT、MRIの読影

(2) 検査

- ①聴力検査
- ②平衡機能検査
- ③内耳機能検査
- ④聴性脳幹反応検査
- ⑤補聴器装用検査
- ⑥人工内耳の検査
- ⑦顔面神経機能検査
- ⑧鼻アレルギー検査
- ⑨音声言語障害の検査

(3) 手技及び処置

- ①外耳道・鼻腔異物除去
- ②鼓膜切開
- ③鼻出血止血処置
- ④扁桃周囲膿瘍穿刺
- ⑤気管切開術
- ⑥頸部リンパ節生検

B 経験すべき症状・病態・疾患

(1) 頻度の高い症状

頸部リンパ節腫脹、小児の発熱、めまい、聴覚障害、鼻出血、嘔声、呼吸困難、嚥下困難

(2) 緊急を要する症状・病態

急性感染症、外傷、誤嚥

(3) 経験が求められる疾患・病態

(B疾患については、外来診療または受け持ち入院患者(合併症含む。)で自ら経験する。)

- ①中耳炎(B)
- ②急性・慢性副鼻腔炎
- ③アレルギー性鼻炎(B)
- ④扁桃の急性・慢性炎症性疾患
- ⑤外耳道・鼻腔・咽頭・喉頭・食道の代表的異物

